

金利平価説は未だ有効であるか

経済学部経済学科 4年

学籍番号:1151180 番

森川潤也

1. 背景

カバー付き金利平価が成立するか否かは近年注目を集めているトピックである。情報技術が著しく発展し、グローバルな大規模金融取引が即座に行われるようになった現代では、カバー付き金利平価は理論上成立するはずである。しかし、現実にはカバー付き金利平価は成立しておらず、その傾向は近年強まっているという研究もある。

2. 目的

当論文では、カバー付き金利平価が有効であるか否かを明らかにするため検証を行った。また、カバー付き金利平価の成立・不成立の理由を探るため、検証結果と先行研究を比較した。

3. 検証方法

カバー付き金利平価が成立していれば、本国通貨と外国通貨どちらに投資を行っても得られるリターンは同じになる。そこで、ヒストリカルデータをもとに、本国通貨に投資を行った場合に得られるリターンと、外国通貨に投資を行った場合に得られるリターンを比較し、差が生まれた場合はそれをカバー付き金利平価からの乖離とした。

4. 結果

カバー付き金利平価からの乖離は、金融危機を境に大幅に増加していた。また、使用する通貨によってカバー付き金利平価からの乖離にそれぞれ特色があることが明らかとなった。

5. 結論

検証結果から、カバー付き金利平価は金融危機後において成立しなくなっていた。先行研究では、カバー付き金利平価の不成立には様々な要因があるとされている。その中で、ドル資金調達プレミアムの増加と世界的な金融規制という要因によって私の検証結果を説明することができた。よって当論文ではこの2つの要因によってカバー付き金利平価は成立しなくなったという結論を出した。